

嬉野小学校学校訪問記

22.7.8

藤津教育事務所 橋本 良子

魅力たっぷりの授業研究会

6年3組の国語の授業を参観させていただきました。「イースター島にはなぜ森林がないのか」という説明文を読んで、みんなが疑問に思ったことを課題としてあげ、対話活動を通してその疑問点を解決していくという授業を展開されていました。もちろんそこには、文章構成や内容、筆者の主張を正しく読みとらせたいという指導者のしっかりしたねらいがあるのです。子どもたちに主体的に学ばせながら、読みの力をつけようという先生の巧みな単元構成が仕組まれておりました。まさに、“魅力ある授業づくり”になっています。

1時間の授業の中にも子どもたちの輝きがたくさんありました。授業研究会も先生方の熱意にあふれていました。



「森林が失われた主な原因は、人間とラットのどちらだろうか。」

対話題としっかり向き合い、自分の考えを本文の言葉に着目して見つけています。

さっと、書き始める子どもたち。

しっかり読みこんでいるなと感心しました。

選択型の対話題もみんなが自分の考えを持つことができ効果的でした。

(対話題にも魅力がかくれていました。)



自分の考えをとなりの友だちに伝えるペア対話です。ここでもさっと向かい合い、一人一人が根拠をもとに話をしていました。学び方がしっかり身についています。

これまでの取り組みの積み重ねで国語の力が育ってきている6年生の姿がありました。



全体対話では、ラット派、人間派ともに堂々と自分の意見を言っていました。「ちょっとちがいます」「わかりました」「いいです」など友だちの考えにしっかり反応していました。また断定表現や推定表現など筆者の書きぶりにも目をむけるなど読みの深まりが見られました。

樋渡先生の話術も見事で、すーっと引き込まれていく子どもたちでした。



先生方の研究会でも子どもたちに負けないくらい活発な意見がかわされました。グループ対話では、付箋紙を使ってよかったところや課題を挙げられていました。先生方一人一人の意見が反映されて質の高い討議がなされました。熱心な先生方の姿は大変魅力的でした。



6年3組だけではなく、1組でも2組でも同じように実践し、それを検証し課題が出てきたら方策を練り上げ次の授業へとつなげておられました。「こんな考えで授業を組みたてました。」6年生の先生方は熱く語ってくださいました。チームワークの素晴らしさにも魅力を感じました。

講師である佐賀大学附属小学校の橋本幸雄教頭先生が「対話活動は、すぐにできるものではない。積み重ねが大切、また、学級の支持的風土も大事である。」とお話をされました。日頃の先生方の指導と子どもたちのがんばりが授業につながっていったのだと思います。研究会後に担任の樋渡先生が「子どもたちが昨日の日記に『今日はたくさんほめられたい』と書いていたんです。明日はたくさんほめたいと思います。」と笑顔でお話をされたのがとても素敵でした。これから、さらに先生と子どもたちの心通うすばらしい学びになっていくことと思います。